

経済学部 1 年 吉村純平

自分は最初このプログラムに参加することをためらっていました。一番の理由として私は英語が苦手でした。中学生の頃から苦手で、高校でもうまくいきませんでした。それでも参加しようと思ったのはこの英語嫌いを克服するためのきっかけを作りたいかったのと、留学を体験するチャンスがもうないかもしれないと思ったからです。結果的に自分にとってこの留学は非常に有益なものになりました。アメリカに行って一番苦労したことは、外国人とのコミュニケーションです。特にホストマザーです。私のスピーキング、リスニング力がなかったためホストマザーと意思疎通があまりうまくいかず、いらいらされてしまったため話すのが怖くなってしまいました。それでもできるだけ話しかけるようにして、帰るころには最初に比べると話せるようになってました。授業については、最初は先生が話していることが聞き取れず苦労しましたが、それも次第に慣れてきてだんだんと困らなくなっていきました。また、私が授業を受けたクラスには様々な国の生徒がいました。授業中はグループワークや2人でペアを組んでの話し合いが必ずあったので、いろいろな国の人と話すことができました。しかし全体的に日本人が多かったため、グループを作るときはだいたい日本人と一緒にになってしまったし、ペアを組む時も日本人と一緒にすることがありました。それでも授業中は英語を使いましたが、休み時間などはほとんど日本人と日本語で絡んでしまいました。学校は毎朝8時から始まり13時に終わります。そのあとは自由だったので電車やバスをつかって色々な場所に行きました。交通機関を使う上で私が感じたことは、日本よりもシンプルかつルーズということです。バスも電車も 2.5\$ でどこまででも乗ることができ、電車の改札のようなものは見られず、たまに警察が見に来るといった感じでした。しかしバスは特に時間にルーズで、私は毎朝バスで通学していましたが 20 分くらいバスが来ないといったこともよくあったのでとにかく困りました。また休日はほとんどバスがなく、最終のバスもかなり早い時間だったので大変でした。なので、遠出するときは車を持っている友人に連れて行ってもらったり、格安タクシーを使っていました。他にも沢山の日本と異なる文化に触れることができました。この一か月自分の

全く知らない世界で生活してみて、ほんとに様々なことを吸収できたと思ってます。いろんな人種、年齢の人と話したり、沢山のことを経験してみて、一年生で19歳のこんなに早い時期に行けたことはとても価値のあることだと思いました。自分の将来に対する考え方も変わったし、自信もついた気がします。この体験を無駄にしないように今後の大学生活を過ごすとともに、これからの人生に生かしていきたいです。忘れられない一か月になりました。



経済学部 1 年 宮崎 大

今回の体験記を書くに当たって、飛行機の予約、現地での生活を手配してくださった雲先生、学務係の職員の方、留学先のホストファミリーや先生、仲間、そして多額の費用を出してくれた、親と祖父母に感謝の意を述べておきます。ありがとうございました。私は今回の留学で、おそらく人生のターニングポイントになるであろう素晴らしい経験をさせてもらいました。日本に帰ってから多くのひとが「今回の留学で英語力は身についたか？」と聞いてきますが、それは微々たるものだ自分自身感じています。

正直なところ、一か月の期間は英語力の向上には短すぎました。それでは、何が身についたかというと、それは、英語に対する積極性の向上が一つとして挙げられます。授業においては、少人数教室であったことや、日本とは違い、多くのひとが自由に発言している姿が、私が積極的になることを後押ししてくれました。英語で授業を受けていくうちに、積極的に発言や質問をしていく自分がいました。日常生活においては、放課後に外国人のクラスメイトと遊んだり、街に出かけたりしました。ホームステイ先では、ルームメイトと食事中的の会話を楽しんだり、互いの文化を紹介しあいました。ホームステイ先に7人もの留学生がいたことは、英会話の機会が増えた大きな要因だと思いますし、自分にとって本当にラッキーだったと思います。こうした現地での会話において、自分の気持ちや考えを、身振り手振りを加えながら何とか伝えることはできましたが、決して 快適に会話できた とは言えないものでした。したがって、自分の英語の未熟さに気づけたいい経験でもありました。IBP に所属しているので、もう一度留学できるのは来年度の後期からです。それまでに英語を勉強しなおして、快適に会話できることを目標に頑張っていきます。授業以外の時間は、毎日のように遊びに出かけました。アメリカの食事を楽しみ、ショッピングをしたり、ビーチをはじめとする多くの観光名所に行ったりしました。とにかく何事も日本より規模が大きく、驚かされる毎日でした。日本とは異なる情緒にふれ、アメリカの価値観が少し分かりました。アメリカの価値観だけでなく、学校の友人やホームメイトから、彼らの国の文化や価値観も同時に知ることができました。最も刺激的だったのは、中国人のルームメイトと、中華人民抗日戦争70周年記念日に、現在の日中関係について語り合ったことです。お互い情動的に激しくなることは、幸いにもなく、「アジア人として誇りをもって生きていこう」と熱い握手で終わりました。今回の留学で人間的に少し大きくなれましたし、英語の自信も前よりつきました。それから、多くの外国の友人ができました。留学が私に多くの将来の糧を与えてくれたと思っています。



経済学部 1 年 穴籠理元

私が今回の留学を決めた理由は、以前から英語に興味があり、外国に行ってみたいと思っていたからです。私は高校生の時に、英語の教師になりたいと思っていました。しかし、受験であまりいい成績が取れずに、経済学部に入りました。それでも英語の教師があきらめきれずに転科を考えていた時に今回の留学のことを聞いて行ってみようと思えました。アメリカの空港に着いて、すぐにアメリカと日本の違いが見られました。道路は進む方向が日本と反対で、空港にいた警官は腰に拳銃を持っていました。そしてホストマザーに会って挨拶をした時、ハグをされ、そこでも日本との違いが見られました。私のホストマザーは黒人で、アパートに一人暮らしをしている方でした。サンディエゴの気候は、雨がほとんど降らない気候で、水はとても貴重です。なので、服は毎日選択できるのではなく、一週間に1, 2回が普通だそうです。また、昼と夜の気温の差が激しく、昼間は日差しが強く熱いのですが、夜になるととても寒くなり、夏でも夜は毛布がないと寒くて眠れ

ない状況でした。サンディエゴの大学での授業は月曜日から木曜日まで朝の8時から昼の1時までで、授業は3つありました。クラスには日本人と外国人が半々くらいの割合でした。授業は全て英語で、みんながわからないような単語はわかりやすい表現で教えてくれました。英語があまり好きではない人は、授業が苦痛に感じるだろうなあ、と思いました。オーラルコミュニケーションのクラスで、各国の平均月収の話になり、アメリカの平均月収が40万から50万だということを知りました。その時、月収が高いからアメリカの物価は高いのだろうなあと思いました。そしてチップの仕組みを教えてくれて、チップはウェ이터等の、収入が低い方たちの助けとしてチップは存在すると知りました。授業以外で実際にアメリカ人の人と関わってみて思ったことは、彼らはとてもフレンドリーだということです。見ず知らずの人でも話しかけたらいろんなことを笑顔で話してくれました。また、英語を話す人によって聞き取りやすい人と、聞き取りにくい人がいるのだと知りました。アメリカの方達と話していつも言われたことがあります。それは、私がまだまだ若いということです。若いからまだまだチャンスがあるよ、と言ってくれました。それを聞いて私はとても勇気づけられました。私はこの一か月で、英語の教師になりたいとあまり思わなくなりました。その代わりに、将来外国の方達と一緒に働いてみたいと思いました。そのためにも、これからもっと英語を頑張って、さらに来年もう一度外国へ、次回は1年間行ってみたいと思いました。今回の短期留学は、自分の人生でとても素晴らしいものとなりました。もし留学を考えている人がいたら、ぜひ、行くことをお勧めします。

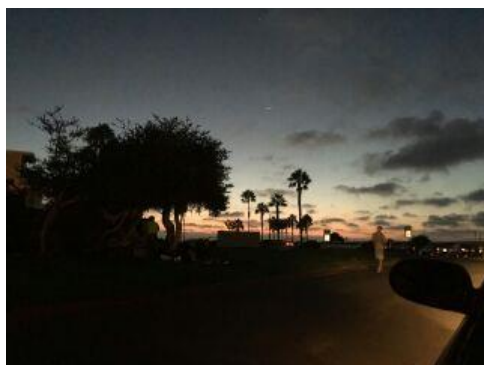


経済学部 1 年 植木久瑠実

今回の語学研修の中で特に印象に残ったことが2つあります。

まず1つ目は、現地の人の優しさです。電車の中で立っていると席を譲ってくれる人が多かったり、どんな時でも道を尋ねると教えてくれたり、話を聞いてくれること。中でも特に人の優しさを感じたのは、電車に乗ろうとしたとき、私のリュックが開いていて、中身をぼろぼろと落としてしまって困っていた時に、近くにいた人がさっと動いて中身を一緒に拾ってくれたことです。また、電車は自動ドアではなく押しボタン式なのですが、他の人が私が乗るまでボタンを押してくれていたおかげで、学校の授業に遅れなくて済みました。

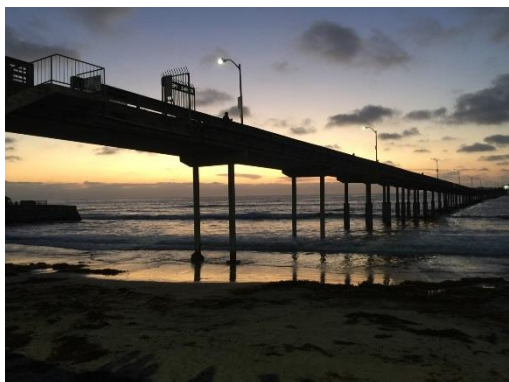
2つ目は、周りの留学生の意識の高さです。私たちは、土・日以外は大学で授業を受けました。授業は、コミュニケーション・ライティング・リスニング・リーディング・グラマーがあり、レベル別に分かれて受講します。どの授業も少人数制というのもあって、多くの生徒が先生の話の止めてまで、意欲的に質問等をしている姿がとても印象に残りました。留学生は主に中国、韓国、台湾、サウジアラビア、日本から来ていました。他国の人たちの英語力の高さに衝撃を受けました。ですが、日本人留学生も積極的に英語を話しており、刺激になりました。授業を通して、



自分の英語力が低いことを痛感するとともに、もっと英語を頑張ろうと思えました。

最後にこの語学研修を通して思ったことを述べたいと思います。私は昔からリスニングが大の苦手で、語学研修初日のころは、ホストマザーの話を全く聞き取れず、学校の授業でも先生の話聞き取れず、日本に帰りたと思ったほどでした。ですが、ホストマザーは親切に分らないところは筆談で話してくれました。日を重ねていくうちに、だんだん耳が慣れてきて筆談してもらわなくてもだいぶ理解できるようになりました。日本に戻ってきて、リスニングをしたら、以前より聞き取れるようになっていたので嬉しかったです。また、もう1つ変化がありました。以前は、欧米の留学生に自分から話しかけることができなかったのですが、アメリカで、現地の学生や留学生に自分から声をかけていくように心がけたところ、日本に戻ってきても、英語で自分から気軽に話しかけていくことができるようになりました。この2つの変化は、自分にとって大きな変化でした。これからも英語力を向上させられるよう努力していきたいです。

サンディエゴは海がきれいで、人々がフレンドリーでとても素敵な場所でした。この場所で、多くの経験ができて本当に良かったです。



私は夏休みの1か月間、アメリカのサンディエゴ州立大学の短期語学研修に参加しました。私は猫アレルギーを持っており、2日目にホストファミリーチェンジを申告しました。変えるまでに担当者と色々話をしなければならなかったけれど、英語で自分の意見を伝えることが難しく自分の英語力のなさを痛感しました。

大学の授業は1日に3つあり、1時間目の授業は8時から始まります。最初、授業開始3分前になっても全然クラスメイトが集まらないことに驚きました。クラスメイトには台湾人やサウジアラビア人、クエート人やフランス人、ブラジル人など様々な国の人がいて、国によって英語の発音が少しずつ違っていたので面白かったです。授業はペアワークが多かったためクラスメイトと仲良くなる機会が作れ、それぞれの国についてよく話しました。フェイスブックでクラスのグループトークがあり、そこでテストや宿題について連絡を取りあっていました。大学のジムや図書館は24時間開いていて、ボーリングも1ドルで何時間でもプレイすることができ、ボーリング大会がよく行われていたため、参加しましたが、メンバーがシャッフルされるためチームに知っている人がいませんでした。しかしプレイしながら、たくさん話していき仲良くなることができました。また、夜9時からスタートするプールパーティーにも参加しました。他にも大学では毎日のようにいろんなイベントが行われていたため、たくさんの友達を作るいい機会と思い積極的に参加しました。授業は毎日1時に終わるため、午後は自由に過ごすことができました。トロリーという電車に乗り、いろいろなところに出かけましたが交通機関でいろいろ驚いたことがありました。まず、電車はボタンを押さないとドアが開かないということです。そして、バスでは降りるとき日本ではボタンを押して知らせますが、アメリカではひもを引っ張って知らせなければなりません。最初分からず、乗っていた人に質問しました。毎日、とにかくいろいろな場所に出かけ、道に迷った時は近くの人に尋ねていましたがサンディエゴの人はとても優しく親切で、声をかけると必ず立ち止まって話を聞いてくれ心の温もりを感じました。

ホストファミリーとは、よく外に出かけ、宿題もよく手伝ってくれました。発音やアメリカンスラングも教えてくれとても勉強になり、使えるようになりました。今もホストファミリーとは、フェイスブックで連絡をとりあったり、手紙のやり取りをしたりしています。この1ヶ月間はとても短く感じました。日本では経験することができないことをいろいろ学べ、何より楽しかったです。帰国するときはいよいよ生活や英語に慣れたころだったため、もっといたいと思いました。また、留学する機会があれば積極的に参加したいと思います。



2コマまで自分の好きな講義を受けることができます。私のクラスは、サウジアラビア人と日本人の多いクラスで人数は15人でした。雰囲気としては、少人数且つペアで取り組む講義が多く、日本でいうゼミみたいでした。他には発言・質問がしやすく、先生ともクラスメイトとも打ち解けやすい空間でした。交通手段は、trolley(日本でいう電車)やバスを使ってショッピングや学校に行きました。何回も乗り過ごしたり、乗り間違えたりもしましたが凄く良い経験です。私は元々日本でも電車に乗り慣れてなかったのに、凄く勉強になりました。

ホームステイ先は5人家族に同じ SDSU 生が4人いて毎日賑やかでした。部屋は私だけ短期組だったので、1人部屋で割と自由に過ごせました。夜は family と話したり、TV を見たり、ゲームをしたり、休日には動物園に連れて行って貰いました。家の中は洋画でもあるように土足なのでスリッパがあると便利です。私のホームステイ先は結構日用品を貸してくれたので、渡米する前にたくさん質問をしておくといいと思います。

私がこの語学研修で感じたことは、サンディエゴは凄く住みやすい所だということです。最初の頃はどこに行くにも警戒していましたが、警戒するどころか何度も助けて貰いました。拙い英語でも笑顔で聞いてくれたり、trolley の中で目が合うとニコッと微笑んでくれたり、日本には無い光景で凄く嬉しかったです。そして、この語学研修を終えて一番最初に感じた嬉しい出来事は留学生と前よりもコミュニケーションが取れるようになっていました。今回の語学研修は本当に貴重な経験となりました。この経験をこれからの大学生活に活かしたいと思います。



経済学部 2 年 伊藤夏貴

私は夏休みを利用して8月30日から9月28日までの1カ月間、米国のサンディエゴ州立大学(San Diego State University、略称 SDSU)に語学研修に行って来ました。学校は基本月曜日から木曜日までで3コマの講義を受けます。講義内容としては、オーラルコミュニケーションと呼ばれるコミュニケーション能力を高める講義、文法、リーディング、ライティング、リスニングを学びます。金曜日は



はとても貴重で私の人生の中で最も心に残る経験だったといえます。文頭でも述べた通り私は英語が苦手であり好きではありませんでした。しかし、一ヶ月のサンディエゴでの生活を経て英語を好きになりもっと話せるようになりたい、もう一度留学したいという気持ちが生まれました。これだけでも今回の留学は十分意味のあるものになったと思います。価値のある経験をさせてくれた周りの人たちにはとても感謝しています。これからもこの経験を活かし、英語力を磨いていきたいです。

経済学部 2 年 江口茉優

私は、英語が苦手でした。今回の留学も学生生活の間になにか特別な経験をしたいという思いで参加し、あまり英語に関しては考えずに出発しました。しかし実際アメリカにつき、ホストファミリーと会ったとき、1日目に学校へ行き授業を受けたとき、周囲との英語力の差を痛感し何とかなるだろうという気持ちで留学したことを後悔しました。それと同時に絶対英語を話せるようになりたい。必ず何かを得て帰りたいという気持ちが生まれました。留学中はホームステイでした。ホストファザーは英語が苦手な私に対して何度もゆっくり優しい表現を使って話してくれました。ホームステイなので、アメリカの家庭料理や生活を体験できます。学校のクラスは少人数制で先生も優しく、クラスの雰囲気もととてもよかったです。日本人が多いクラスですが授業中は日本人同士も英語で会話し、自ずと英語力が磨かれる環境がありました。学校は朝8時に始まり昼過ぎには終わるので午後は自分の好きなように時間を使えます。私はその時間にサンディエゴの観光やショッピングを楽しみ、休日には少し遠出をして海や LA 旅行に行くようにしました。サンディエゴの人々はとても気さくで優しく、電車やお店の中、困っているときなどすぐ話しかけてくれました。日本ではあまり馴染みのない光景なので最初は戸惑ったけど、そのやさしさにとっても温かい気持ちになりました。アメリカの一番の良さはここだったと私は思います。このように憧れのアメリカでの生活を体験できたこと



経済学部 2 年 山永真乃

今回私は大学 2 年の夏休みを利用しアメリカのサンディエゴ州立大学で行われる夏季語学研修に参加した。一か月間というとても短い期間だったがその期間の短さを感じさせないような大変充実した日々を送ることができた。

日々の授業はオーラルコミュニケーションやライティング、リーディングのクラスなどがあり、どれもとても楽しくわかりやすい授業だった。私はこの授業を受ける過程で気

づいたことがあった。それは、日本人が積極性に欠けるといことである。クラスは 20 人ほどの規模でその中に日本人もたくさんいたが、中国、台湾、フランス、サウジアラビアなどから参加している人もいた。授業では先生が私たちに問いかけをする機会が多くあった。そのような時に積極的に発言するのはいつも日本人ではない人たちだった。ここで私は自分たち日本人が自分の意見を積極的に発言することにいかに慣れていないかを思い知らされた。そして発言が少ないということは意欲がないと思われてしまう可能性があることも分かった。そのため私も自分の意見を積極的に発言するように努力した。授業の最終日には私の発言した意見にクラスメイトや先生がとても興味を持ち、同意してくれた。このことは私にとってとても大きな自信になった。

たいていの日本人は人前で自分の意見を言うということに恥ずかしさや怖さを感じていると私は考える。また、日本人には自分の意見を堂々と言う人を良く思わない人が多いと感じる。しかし夏季語学研修を通してそれは間違っていると分かった。サンディエゴ州立大学での授業は発言が多いことで授業もよりわかりやすく楽しいものになっていた。誰もが自分の意見を言いやすい環境が整っていた。これは日本の私が今まで体験してきたものとは異なるものであり、また採用すべき点であると感じた。

また、このアメリカのサンディエゴ夏季語学研修の全体を通して気づいた点がもう一つある。それは行動力の大切さである。サンディエゴには本当にたくさんの魅力的な場所がある。ガイドブックにもたくさん掲載されている。またサンディエゴ州立大学にはボランティア活動や観光ツアーなど毎月多くのイベントがある。しかしそれらの場所やイベントに行くことや参加することはすべて自分次第である。私は思い切ってたくさんの場所に行き、イベントにも参加した。そのおかげでとても充実した一か月だった。与えられた期間はみんな平等であるため自分の行動力次第で充実させることもつまらない旅にすることもできてしまうと感じた。

このサンディエゴ夏季語学研修を通じて私は今までの自分に足りなかったものを学ぶことができた。その学んだことを生かし今後の日本での学生生活もさらに充実したものになれるよう努力していきたい。



経済学部 2 年 相部秀平

今回のサンディエゴ語学研修で、私はアメリカの文化、アメリカ人の人柄、英語で話すことの楽しさ、そして外国生活の難しさを知ることができた。また、アメリカは日本と違う点が数多く存在し、それらの違いを自身で実際に体験できることが留学における大きな楽しみであると感じた。研修初日、サンディエゴに到着した私は、すべてのものが日本と違い新鮮だと思いつつも非常に感動し、何もかもが物珍しく、車道は右側通行、当然ながらすべてのものの表記は英語、警察官は日本に比べかなりの重装備、このようなアメリカ人にとっては当然のことも私には非常に感銘を受ける要素であった。だが感銘を受ける一方、日本とは何もかも勝手が違うため不安感も相当なものであり、特にホストマザーとの会話はすべて英語だったため最初はぎこちない会話ばかりで、私も「Yes」や「No」ばかり言うだけで、思ったことがうまく伝わらず、またホストマザーの言っていることも部分的にしか理解することができな

かった。そのため、ホストマザーがバスの乗り方などを教えてくれるものの十分に理解できず、日本とは勝手の違うバスなどの交通機関に乗る際不安を感じるが多かった。けれどもそのような不安は1週間も経つとアメリカの生活に慣れるとともに払拭されていき、気を楽しんで学校や買い物、ホームステイをしている家での会話を楽しむことができるようになっていった。アメリカの生活に慣れるにつれ、耳が少しは鍛えられたためか語学研修初日よりネイティブスピーカーの話していることが理解できるようになり、学校でも様々な国から来ている留学生やネイティブスピーカーの先生とともに英語で会話をするため、短い会話ができる程度の英会話力を身につけることができた。そして私は特に留学生との会話の中で、出身国がどのような国なのか聞くことが、非常に楽しいと感じた。

私は研修生活に慣れるとすぐにサンディエゴのいたるところに出かけ、観光をしたが、サンディエゴの社会は非常に暖かく優しい印象だった。街を歩いてもまず怖い思いをすることはほとんどなく、電車の中では席を妊婦の方に譲るといった暖かい光景をたまに見かけた。そして家では、私はホストマザーとの会話が語学研修の中で最も楽しいと感じた。授業としての英会話ではなく、本物の日常会話を体験することで自然な英会話を学ぶことができ、また自分の使う英語に対し訂正をしてくれる点が、他では得られない経験だった。

最終的に、この語学研修はアメリカに行かなければ知ることのできなかったことを知ることができた私にとってかけがえのない思い出であり、英会話がさらにできるようになりたいといった自分の英会話に対する学習意欲を高めた非常に価値のある経験であったと私は考える。



経済学部 2 年 太田実咲

私は、2015 年の 8 月 30 日から 9 月 28 日の一か月間、アメリカのサンディエゴ州立大学で行われる、短期語学研修に参加しました。ALI(American Language Institute)という、英語研修課程で英語を勉強しました。

朝 8 時から午後 1 時まで 3 コマの授業を受けました。授業は、Oral、Writing、Reading の、三種類の授業がありました。コミュニケーションをとるために、グループワークが多かったです。文法もすべて英語での説明だったので、難しかったです。また、他国の人たちとの意見の違いがたくさんあり勉強になりました。

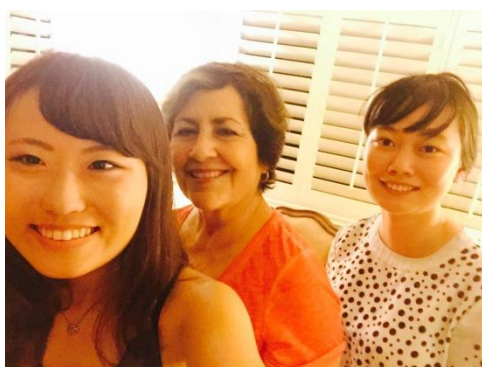
休憩時間は、授業でできた友達とお菓子を食べたり、自国の話をしたりしました。昼食は、大学内のお店で食べました。ボリュームが多くて毎回驚きました。大学内には、多くの種類の飲食店や、本屋、ボーリング場、ジムなどもあり驚きました。

午後は様々な場所に行きました。ダウンタウンは町並みがとても可愛かったです。私は海が好きだったので三か所の海に行き泳ぎました。アメリカの海は砂が白くてきれいでした。波が強くてとても楽しかったです。

週末はロサンゼルスに観光に行くツアーに参加しました。有名な場所にたくさん行けました。ほかには、土曜の朝しか行われない朝市に行きました。日本では見られない光景でワクワクしました。新鮮な野菜や花、小物などがあり、見るだけでも十分楽しめました。

ホームステイでは、アメリカ人のホストマザーと、中国人とサウジアラビア人のホームメイトと生活をしました。初めはコミュニケーションを取ることもさえ難しかったけど、私が理解できるまで、何度も何度も説明してくれました。それぞれ国や文化は違いますが、英語で自国のことや、家族のことなどを話しました。家族みんなで夜に映画を見たこともいい思い出です。私を家族の一員のように接してくれて嬉しかったです。

初めての海外生活だったので、とても不安でした。英語を聞き取ることで精一杯で、自分の意見を言うことが難しかったです。全てのことが初めてで、とても苦労しました。最初の頃は、帰りたいと思うこともありました。しかし、1 か月間、アメリカで過ごすことで、英語力が上がるだけでなく、精神的に強くなりました。また、アメリカで出会った人たちは自分の意見をきちんと持っていました。周りに流されるのではなく自分の意見を持ち伝えることの大切さにも気づかされました。また、相手の気持ちも考える情けの心の大切さを改めて感じました。アメリカで多くのことを学びました。これからの人生に役にたてていきたいです。



私は、3年生になって少し気持ちにも余裕が出来てきて、いろんな経験を大学生のうちにたくさん出来たらいいなと思い短期留学をすることに決めた。はじめは軽い気持ちで考えていて私は英語が得意でもなかったし、ましては日本から出たことがなかった。前期の間に留学の準備をして、全然実感もわからずに気づいたらサンディエゴ空港に降り立っていた気がする。様々なことがはじめてで、話す言葉はもちろん道路の車線も日本とは逆で、右も左もわからない状態だった。私のホストファミリーはホストファザーとマザーと中学生の女の子がいて本当にこの3人に助けられた。はじめはこれから一ヶ月どうなることかと思うくらい英語も聞き取れなかったし、ましては自分の言いたいことも言えなかった。しかしそんな私の話を聞き取ろうという姿勢で接してくれた。そんな温かい家族に助けられた。ALI の授業はオーラルコミュニケーション、リスニング、リーディングがある。多国籍な生徒が集まっているのでその国の英語表現がありなかなかスムーズに話す言葉は困難であった。しかし、多くの友達ができたし、連絡先を交換したり、お昼ご飯を一緒に食べたり、授業以外でも仲良くすることができた。

私が一ヶ月の短期留学で一番感じたことは、公用語は使えるに越したことはない、そして自分ももっと勉強してなんの障害もなく英語を使いたいということである。私がホームステイ先に滞在して2週間目ほどだったある夕食にサーモングリルがでた。みんなで楽しく食事をし終わった後にホストファザーがいきなり倒れた。彼は海老アレルギーをもっていたのだが、調子が悪かったのかサーモンでもアレルギー反応がでたようだった。この状況が理解できたのには訳があり、この日はたまたま日本人の大学院生も一緒に食事していた。彼女がいたので緊急病院を3軒はしごしてようやくしっかり検査してもらえ病院を見つけ出せた。この時私は何もできない自分が恥ずかしかったし、もし私しかいなかったらどうなっていたらと思う。この留学でこの経験は本当に貴重でたった一ヶ月で緊急病院に行く機会があるとは思っていなかった。しかしこの経験が英語をもっとできるようになりたいとおもったきっかけともなった。

もう一つ感じたことは、私が日本食を振るまったときに家族がとても美味しいといってくれ日本の食や文化を海外の人にもっと知ってもらえたらいいなと思った。わたしも彼らからたくさんの文化や美味しいご飯を教えてもらった。知らない国のことを知れることや、味を味わえることは刺激的である。毎日食べているものがある人にとってははじめての味であったりすることはなんだか面白いなとも感じた。せっかく経済学を学んでいるのだからそれと絡めてなにかを将来生み出せたらいいなと思った。私の毎日同じことの繰り返しだと思っていた生活がこの一ヶ月間は 180 度変化し、夏休みがただダラダラとすぎるだけにならずに本当によかったと思った。もちろんすごく日本が恋しく感じ、毎日なんだか落ち着かない気持ちも感じていたけれど、それとは逆の気持ちも多く感じた。留学いくというみんなに決まっていた一ヶ月？と言われた。でも私は今回行ってみて経験しないよりも一ヶ月でも経験したほうが人性の厚みも全然変わってくると思った。



私はサンディエゴへの短期留学は私にとって良い経験になったと感じています。1ヶ月というのは、とても短くこの期間内での英語力の上達は目に見える程のものではありませんでしたが、それ以上に日本以外の国での生活に様々な刺激を受け異文化に触れることができたのは旅行では得ることのできない有意義な糧になったと思います。

現地での生活については、平日はサンディエゴ州立大学付属の語学学校に通いました。習熟度別のクラス分けによる Oral・Grammar・Writing・Listening の授業構成でした。はっきり言って最初授業に慣れるまでは、授業が苦痛でした。英語のみの授業というのに慣れていない私は戸惑ってしまい、なかなか自分の力を出せませんでした。二・三週間目になると先生ともクラスメイトとも馴染めるようになり世間話をしたり、休み時間も楽しく過ごせるようになったので学校もやっと落ち着いて勉強できるようになったような気がします。クラスメイトには日本、中国、韓国、トルコ、サウジアラビアなどの国出身の人がいました。半年や1年の単位で留学している人が多かったように思います。私たちと同じようにホームステイをしている人もいれば、アパートを借り手いる人やシェアハウスに住んでいる人もいました。シェアハウスに住んでいる友達の刺激的な生活を聞いてシェアハウスにも興味を持ちました。大学の生徒もシェアハウスに住むことは一般的であるようで、現地でできたアメリカ人の友達もシェアハウスに住んでいました。何回か遊びにいきましたが、やさしくてとてもおもしろい陽気な人ばかりでした。シェアハウスに住むことに少し抵抗を持っていましたが、してみたいと思いました。

ホームステイに関しては私のホストマザーは働いており朝も早かったので朝ご飯は自分たちで準備して食べる形式でしたが、冷蔵庫の中身も充実していて、好きな物を伝えれば買っておいといてくれたりと不自由はしませんでした。夕食は家族で食べ、夕食後は会話の時間もホストマザーが設けてくれました。

私がこの一ヶ月間で学んだことは、英語の必要性和同時にコミュニケーションの重要性です。もちろん行く前も英語をはなせるようになりたいと思っていましたが、留学中歯痒い思いをたくさんしました。お店で注文一つすること



も、バスの乗り場を聞くことも、すべてにおいて自分の英語の拙さを実感して落ち込むことも多かったです。しかし、ホストマザーにこの話をするとうんなに拙い英語でも話していけば上達するから、恐れて黙ってしまうことがもったいないと言ってくれました。実際現地の人は私の英語を一生懸命理解してくれようとしてくれました。友達もなかなか自分の思いを伝えられない私に対して根気よく紙とペンを使って教えてくれたり、海や食事に連れて行ってくれたりと感謝しかありませんでした。ここが私のサンディエゴの人の好きなのところです。フレンドリーで困っている私に対して嫌な顔もせず対応してくれます。そんな姿勢は見習うべきだなと感じました。そしてさらにもっとコミュニケーションとれるような英語力をつけたいと強く思うようになり、留学にきている同じ日本人の志にも感動し、自分もさらなる努力が必要なのだと、視野は広がったように思います。

したがって、このサンディエゴでの経験を大切に、視野をもっと広く持てるように刺激を受けにいくことが目標になりました。以上が私のサンディエゴでの体験記です。



※ 記載の学年はすべて参加当時(2015 年度)のものであります。